

2016 夏山一雲の平一山行記

梅雨が明けよいよ夏本番、ちょっと元気のない太平洋高気圧のもと「最後の秘境 雲の平」へ行って来ました。私事ですが今回の山行はSL見習いという立場での参加です。病的な方向音痴への不安60%、絶景への期待30%、お風呂・洗髪なし問題10%という気持ちの中…「山下さん、先頭お願いします」「え！私見習いですよね？（心の叫び）」見習いを軽く考えていました。SLの後ろで様子を伺っていればOK。技は見て盗め、みたいな。しかし人生も風の会もそう甘くはありません。心の整理がつかぬまま、いざスタートです。

一日目は残念ながら、かなり本格的な雨に当たりました。「普段の行いが悪いのは誰なの？」と心の中で犯人探しをしながらレインウェアに着替え、徐々に小川と化していく登山道を注意深く歩きながら太郎平小屋に到着。夕焼け頃には雨が上がり、大勢の人が外に出て芸術的な夕日を堪能していました。三浦さんが夕日の写真を撮っていますのでぜひチェックして下さい。とても珍しい形をしています。

二日目。天候は回復し一安心。この日は薬師沢小屋を過ぎた辺りから岩場の急坂が待っています。いや〜本当にキツかったです。しかし、そんな時私の中で伝説の山行となっている「檜洞丸」での経験が力となり、何とか登り切る事が出来ました。その後のご褒美、雲の平小屋で絶景に囲まれて飲むワインは最高でした。

三日目の朝は晴れ。白い花びらが散り紫色の妖艶な姿に変身したチングルマの群れ。朝露に濡れ太陽に照らされた様子はダイヤモンドダストをまとっているかのようにキラキラと輝いてとっても綺麗でした。そして本日のハイライト、名峰に囲まれた景色を堪能しつつ木道を左へ曲がった先に、なんと雷鳥の親子の姿が！しばらく雷鳥にリードしてもらって幸せ…先頭を歩いていた甲斐がありました。また白い花びらのチングルマがあちらこちらで見ることができダブルの幸せでした。しかし幸せはそう長くは続きません。黒部源流から加田さん、市川さん、私の三人が先に出発。30分先のところで休憩をとり、加田さんのGPSを確認したところ、私達の現在地が目的地の三俣蓮華岳から逆へ向かっているではありませんか！ちょうど向こうから来た山小屋で働いているという草刈り中のややイケメンにも確認したところ「三俣蓮華岳は逆ですよ」と。ガァーーンやっちゃいました。同行のお二人には申し訳なかったのですが、また黒部源流分岐へ戻ることに。そして標識を確認したところ確かに見たのです、その標識。しかし矢印が微妙な向きだったのです（←説明が難しい）。一時間のロスの後、三俣山荘で河野L率いる皆さんと合流することが出来ました。私の確認不足と思ひ込みのせいで皆さんにご迷惑をおかけしました。ランチ休憩後、天候の悪化が予想される、また私達が遅れたこともあり予定の三俣蓮華岳には登らず、その日の宿となる双六小屋を目指すことになりました。山荘を出発した直後に雨が降り始め、まるで私の気持ちとオーバーラップするかのように小屋までの道のりは長く険しいものとなったのは言うまでもありません。

最終日は帰りのバス時間のこともありタイトなスケジュール。下山途中は槍ヶ岳やGWに登った焼岳、遠くに乗鞍、噴煙を上げている御嶽山が見送ってくれました。

全体的に要所では天候に恵まれたと思います。結局、雨を呼んだのは雷鳥でもなく普段の行いが悪い誰か…つまり私だったのです。なぜなら空模様は私の気持ちを代弁していたのです。正直に言いますがSL見習いを甘く考えていました。ちょっぴりほろ苦いSL見習いデビューでしたが、皆さんのフォローが良い勉強になりました。そして、いつも計画を立てて皆を引率してくれるL、SLに感謝いたします。じっくりと自然に向き合う贅沢な時間と大切さを改めて実感することになった今回の山行。東京に戻り新宿のビル群を眺めながら人間も自然の一部なのだ、と思うのでした。

(2016年8月8日 山下記)